

こちら営農・技術センター

農薬研究部

“ラウンドアップを超えたラウンドアップ” ラウンドアップハイロード

各地の試験で高い殺草効果を実証



ラウンドアップハイロードは、従来のラウンドアップよりも活性成分を約3割多くふくみ、しかも植物体内への吸収速度を速めることで、殺草効果を増強させた茎葉処理除草剤である。

主な特徴は、ラウンドアップにくらべて、スギナ、シロツメクサ、ギシギシ、ツククサなどの難防除雑草に対する殺草効果が安定していること、耐雨性が向上していることがあげられる。以下に、営農・技術センターで実施した試験結果と、日本各地で実施された防除合理化圃場特別展示試験を紹介する。

営農・技術センターの試験結果

【各種雑草に高い殺草効果】

ギシギシ、イヌタデ、カヤツリグサ、コセンダングサ、メヒシバに対する殺草効果をポット試験で検討した。その結果、多くの草種に対してラウンドアップハイロードは、ラウンドアップよりも高い殺草効果を示した(図-1)。

【すぐれた耐雨性】

メヒシバの幼植物(3~4葉期)に250ml/10aのラウンドアップハイロードまたはラウンドアップを茎葉処理

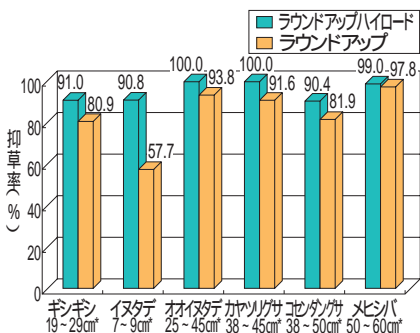


図-1 ラウンドアップハイロードの各種雑草に対する殺草効果
供試薬量：ギシギシ500ml/10a、そのほか草種250ml/10a
*：薬剤処理時の草丈
ギシギシは地下部に対する殺草効果、そのほかの草種は地上部に対する殺草効果を示した

し、その1時間後、3時間後に人工的に降雨処理をした。その結果、ラウンドアップハイロードは、ラウンドアップよりも明らかに高い耐雨性を示した(図-2)。

【速やかな吸収移行】

ギシギシとイヌタデの幼植物(両草種とも4葉期)を供試し、両草種の第2葉目にラウンドアップハイロードまたはラウンドアップの50倍希釈液5μLを4滴ずつ滴下して、その3時間後、6時間後に薬剤処理した葉(第2葉)のみを切除した。その結果、処理葉を切除した場合でも、ラウンドアップハイロードは、ラウンドアップよりも明らかに高い殺草効果を示し、本剤の移行性がラウンドアップよりもすぐれていることが示唆された(図-3)。

防除合理化圃場特別展示試験

【日本各地で実力発揮】

ラウンドアップハイロードは、平成11年度防除合理化圃場特別展示試験として全国約1000カ所で試験が実施されているが、今回、すでに成績が回収されている159カ所のデータをもとに集計してみた。その結果、スギナやセイタカアワダチソウなどの難防除雑草への効果を確認したところ、すべてがラ

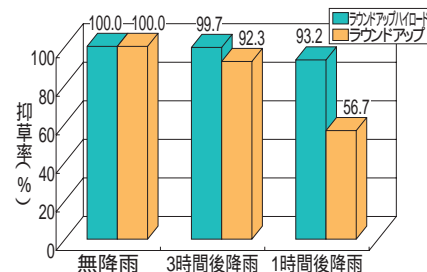


図-2 ラウンドアップハイロードのメヒシバに対する耐雨性試験
供試薬量：250ml/10a、薬剤処理時のメヒシバ：3~4葉期・草丈3~7cm
降雨区は10mm/h・雨滴粒径2mmの降雨処理を1時間施した

ウンドアップと同等以上であった(図-4)。

また、今回回収した成績のなかで普及性について回答があったのは計89件であったが、そのうち「普及性あり」が79件と、約9割の試験で普及性ありの判定が得られた。

これまでの試験結果を総括すると、ラウンドアップハイロードは、まさに“ラウンドアップを超えたラウンドアップ”といえる剤であり、今後の除草作業への貢献が大きく期待される。

【全農 営農・技術センター 農薬研究部 (現在大阪支所)・内田 成】

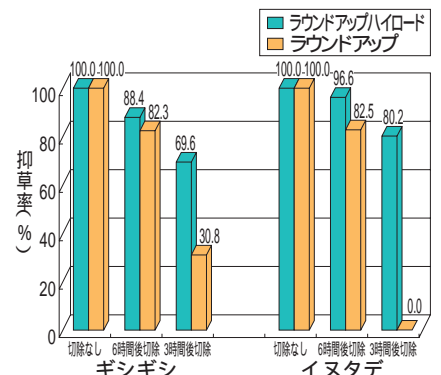


図-3 ラウンドアップハイロードの雑草体内における移行性
各薬剤の50倍希釈液5μLを4滴ずつ第2葉に滴下し、所定時間経過後に第2葉のみを切除した。薬剤処理時の葉齢は両草種とも4葉期であった

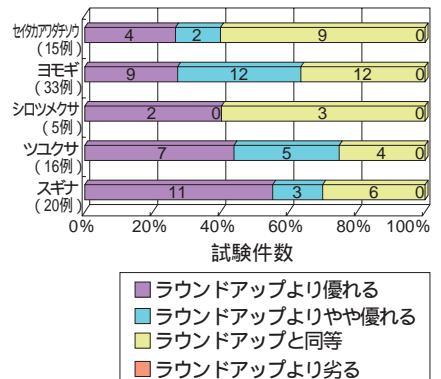


図-4 ラウンドアップハイロードの難防除雑草に対する殺草効果 ()内の数字は試験例数を示す